

成田山の彫刻・絵画・仏像等の制作者について

成田山の彫刻、絵画、仏像等はその時代の名人によるものが多い。
それぞれの建物に関わった仏師や画家について述べてみたい。

総門

世界最古の会社金剛組が建立したが、16体の獅子頭と墓股の干支の彫刻は3人の仏師による。

塚原桂昌師（けいしょう）（後藤流） 昭和8年生 リーダー（阿吽六体を彫る）

福島政山師（せいざん）（後藤流） 昭和12年生

北澤一京師（いっきょう）（不明） 昭和15年生

総門二階の「生まれ本尊の八体仏」は、東京の仏具店「翠雲堂」にて製作
制作会社が判明したが、問い合わせするも残念ながら仏師については教えて頂けなかった。

仁王門

彫刻 後藤亀之介

燈明台

設計者 佐立七次郎（明治初期の建築家）

毀れ不動堂

彫刻 村田 惣三郎

三重塔

羽目板（十六羅漢）、墓股 二代目嶋村圓鉄「心柱墨書」

尾垂木（竜の尾垂木） 藤田孫平次 次棟梁「棟札」

棟梁は桜井瀬左衛門

一切経堂

火頭窓：三代嶋村俊実（としざね）「推定」 1722年建立

塚原桂昌「成田山資料」平成二十二年（2010年）火頭窓四枚追加

向拝木鼻獅子：六代嶋村俊規（としのり）「推定」 1809年再建時の作と思われる。

嶋村圓鉄の作と云われているが彼は1720年没・一切経堂 は1722年建立

享保5年（1720年）圓鉄は没してお墓は茨城県真壁郡大和村（現在の桜川市）

雨引観音（あまびきかんのん）にある。

現在の一切経堂は1809年に再建された。

釈迦堂(旧本堂)

向拝・堂回り羽目板 後藤縫之助

内陣境欄間（松と孔雀・桐と鳳凰） 長谷川権頭藤原政義

胴羽目（五百羅漢） 松本法橋良山「刻銘」

扉三個所十二枚（二十四孝） 八代目嶋村俊表「刻銘」

釈迦堂の四菩薩は大仏師松久宗琳氏である。截金は松久真や氏（松久宗琳氏の二女）

千手観音菩薩 普賢菩薩 文殊菩薩 弥勒菩薩は1991年に松久宗琳氏が造仏

額堂

彫刻 後藤勇次郎（木鼻竜）「刻銘」

光明堂（1701年建立）

彫刻 嶋村圓鉄「棟札」

初代嶋村俊元の長男である二代目嶋村圓鉄は名人と言われた。

清瀧権現堂

彫刻 新井孫四郎「成田山資料・棟札」

出世稲荷堂（1888年建立）

彫刻 後藤 敬信（向拝竜裏側）「刻銘」

彫刻 石川銀次郎（脇障子裏側）「刻銘」

太子堂（1888年建立）

内陣欄間 後藤 敬信「刻銘」

頭貫獅子 石川銀治郎「刻銘」

聖徳大師堂

堂内六面に描かれた絵は日本画家大山忠作氏の作である。

開山堂

格天井の百華図の絵は、仏画家松尾栄氏の作である。

平和の大塔

二階明王殿の五大明王（1983年） 仏師 松久宗琳氏 截金は松久真や氏である。

五階金剛殿の五智如来（1983年） 仏師 松久宗琳氏 截金は松久真や氏である。

二階明王殿の曼荼羅 仏画家 松尾 栄氏の作

大本堂

設計 吉田五十八氏（数寄屋造りの第一人者）

曼荼羅 松尾 栄氏の作（仏画家）

鐘 楼（1701年建立）

二代嶋村圓鉄作の可能性大 （年代や作風から圓鉄か？光明堂・三重塔も圓鉄作）

梵鐘と香閣

铸造 香取正彦氏の作（人間国宝）

光輪閣

襖 絵 大山忠作氏作（日本画家）

額堂・光明堂の奉納額

額堂、光明堂には江戸御三家である後藤家や嶋村家作の掲額が多く見られる。

01. 十代嶋村俊明 02. 後藤清次郎 03. 後藤仙之助 04. 後藤祐正

05. 石工 杉崎弥八 06. 彫工 関谷寶村 07. 清元講

光明堂・奉納額 [奉納額] 彫工 後藤正忠門弟 後藤市蔵正國「刻銘」

光明堂裏 [額縁彫刻] 彫工 後藤正綱「刻銘」

江戸彫工御三家とは

後藤家 嶋村家 石川家であるが、一寺院で御三家の作品がこの様にあるお寺はここ成田山のみではないだろうか？そのような意味で成田山は、彫刻の宝庫である参詣の節は是非とも彫刻を 堪能していただきたいものです。

成田山総門の彫刻は後藤家の流れをくむ

塚原桂昌・福島政山師（両氏とも東京在住）などの作である。